

今回は、本校本事業の国語の担当者である森本教諭の県外研修の報告です。

森本教諭は、講師に上越教育大学の大場浩正教授を招き、創価大学を会場に開催された「日本協同教育学会 認定ワークショップ ベーシック（初級）」に7月29日（土）～30日（日）参加されました。

今回の研修に参加して、協同学習の理念の深層や実際の技法に触れるまで、協同学習を用いて授業を展開していくことには一抹の不安があったそうです。それは、書籍などから得た知識をもとに授業を展開していく上で、協同学習の理念や技法が、自分なりの解釈で本当によいのかどうかということからくるものでした。

実際に協同学習の技法を自分自身が体験することにより、生徒の立場に身を置き、生徒の気持ちを味わうことができたことが今回での研修での一番の収穫だったようです。

研修を通して、協同学習のリベラルで平和的な理念の深層を知り、ますます協同学習が好きになられたようです。そうした意味でも、協同学習はこれからの社会を生き抜くための力をつけるのにふさわしい考え方と方法であるとの認識がさらに深まったようです。

今回は、協同学習の基礎を先生方全員が知り、それぞれの授業で活かせることが少しでもあればという思いで、研修内容の概略を紹介します。

はじめに

教師はファシリテーターに徹すること、どの生徒に対してもニュートラルでいることが大事である。子供たちが、どんどん疑問（モヤモヤ感）を抱くことが次のステップになる。

研修は、協同学習で協同学習について学ぶのだが、そのうえで、次の約束を守ることが必要。

- 1 本気でかかわり合う
- 2 指示・ルールを守る
- 3 個人攻撃をしない
- 4 振り返りをする

協同学習は、コミュニケーションが成り立たないとできないので、ふだんから小さい対話を大切にするのが肝要。例えば、授業の最初の1分間ペアで「今日（今週）どうだった？」などの会話をするなど行うのがよい。**よいコミュニケーションには訓練が必要である。**

グループ作りについては、多様性の受容（異性質の許容）が大事で、方法としては、性別・学年・年齢・特性・興味関心など、なるべく異なるカテゴリーで作るのがよい。

今なぜ協同学習か？

【背景】

- ・PISA 型学力の育成、つまり仲間と共に探求する授業・活動を通して「考える力」を養い、単なる知識にとどまらないう「真の学力」をつけることが求められていること。
- ・学ぼうとしない生徒が増加したことで、仲間と共に学び合うことを通して学びが本来楽しいことであることを知ることが求められていること。
- ・生徒が多様化してきたことで社会的スキルやコミュニケーションスキルを身に着ける必要性が出てきたこと。これは、人間関係力が弱くなってきたことにも関係する。

【必要な力】

- ・自立（自律）した学習者を育成するための協働性の育成
自ら課題を見つけて、学び、考え、主体的に判断するためには、個人では難しく、相談や協力などが必要
- ・問題解決能力の育成
- ・学び続ける学習者の育成
- ・誰とでも主体的にコミュニケーションをとることができる学習者の育成

- ・生涯を通して課題や考えを追求し続けるような問いを作り出す力（クリティカルシンキング）の育成
- ・他者の力を借りることができる力（援助要請・希求できる力）の育成

提唱者のアメリカのケーガンとジョンソンによる協同学習の定義

- ・ **訓練が必要**
- ・ **お互いがお互いのためになる学習**
- ・ **皆が平等に参加する学習**
- ・ **振り返り（メタ認知）が大事な学習** → これらが当てはまる学習が、協同学習

具体的な技法として

- ホワイトボードを用いた「**ホワイトボードミーティング**」
ホワイトボードを一人一枚持ち、ボードを四分割して書き込む
 - ・ 会話が苦手な子に対するツールとしても有効だが、消えてもよい情報に限る
- ダウト**（ウソや間違いを見抜くゲーム） → 質問力を養うのに有効
 - ・ 復習の小テストを、一つの間違いを混ぜて自分たちで作成する
 - ・ クラス開きの自己紹介をクイズ形式で行う

学習活動における個人の責任を持たせるために必要なこと

- ・ 役割分担を明確にして、仕事の内容をきちんと伝えること
- ・ 生徒の興味関心をひくような問い、簡単すぎない問いにすること
- ・ 「一人ひとりには同じ班の人を高める責任があるよ」という声掛けをすること
- ・ いつでもペアワーク、ランダムでの発表、ラウンドロビンで、全員発言する機会があること
- ・ グループ活動の目的とゴール、やり方を丁寧に説明し、生徒の内面で意義を納得していること
- ・ ルールを必ず作って守らせること
- ・ 個人思考の時間を確保（保障）すること

成果の点検

- ・ それぞれの班ごとに発表する
- ・ 班で作成したワークシートを提出させて印刷して全員で読む
- ・ 生徒にランダムに指名して生徒の意見を引き出し、それを板書する
- ・ 「特派員」で別グループの成果を見て回り、コメントをふせんに書いて貼る
- ・ 自己評価について
 - ① 強い個を作る…テストで評価する
 - ② プロセスを大事にする…参加度などの活動姿勢の変容の評価も行う

* 協同しているかどうかを評価する→協同学習ごっこ、になっていないか？

おわりに

「体に体力があるように、心にも体力がある」と言われる。心の体力は、温かい、冷たいと表現する。温かいとは自分らしく生きることができている、人に助けを求められる、自分から頑張っている状態。冷たいとは、パワーがあれば喧嘩や物の破損、パワーがなければひきこもりなど不穏な行動に現れる、不安な状態。この不安を、「安全・安心」な状態にするためには、承認し合うことが必要。また、冷たい状態は温めてあげることが必要。**温める＝エンパワーする（応援する、励ます、温まってくれば突き放す）。心に体力がある状態にするためには、特別なコミュニケーション（その時だけ、一度だけほめる）ではなく、日ごろから、エンパワメントな家庭・学校・職場での日常の何気ないコミュニケーションこそが大切**である。健康増進のためには、一日だけ体にいいものを食べればいいのではなく、毎日の三度の食事が大切なものと同じことである。